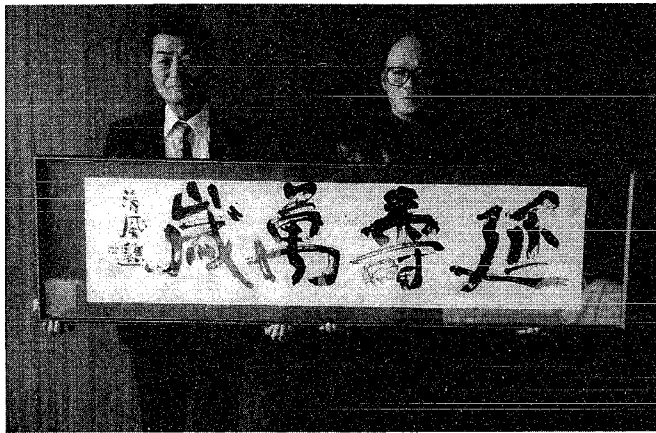




皆さんの情報をお寄せください
38-3111(内線53)

花の湯館へ扁額の寄贈がありました



坂井清風様

12月7日、中央町3丁目の坂井清風様から、扁額(写真)一点を御寄贈いただきました。額は横巾約170センチ縦巾約50センチの大作です。花の湯館の大広間正面に掲示させていただきます。皆さんのご入館の節にはぜひご覧ください。

広報クイズ??

- ①ネズミが使われることわざで「窮鼠犬を噛む」というのがある。○か×か?
- ②小須戸町国民健康保険で実施する「人間ドック」の対象者は満35歳以上である。○か×か?
- ③花の湯館が入場者10万人目を達成するのは1月中である。○か×か?
(12月20日現在 86,811人)
正解者には抽選で10名の方に記念品を進呈。

★応募方法表

クイズの答え	956-01
① ② ③ 住所 氏名 電話番号 町に対するご意見 ご希望等	小須戸町大字小須戸120 役場総務課 企画財政係行

★締め切り 1月15日(消印有効)

11月号のクイズの答え

国勢調査の町の人口は10,380人でした。残念ながら正解者はいませんでした。

今月号は新春特別ということで当選者の数を増やしました。どしどし、ご応募お待ちしております。

今年

は子年。昔は夜になると、ネズミが天井裏を走り回り、チュウチュウと鳴く声が聞こえたりしたものです。最近では純粋な日本家屋が減ってきているためか、家屋の構造が変わってきたからか、都会では天井裏を走り回ったり鳴いたりしているネズミは、少なくなってきたのではないのでしょうか。

ネズミ

は、数も種類も多く、ほ乳類の約半数、千七種を占めるといわれています。しかも、ほぼ全世界に分布しています。ネズミ

今年の子年



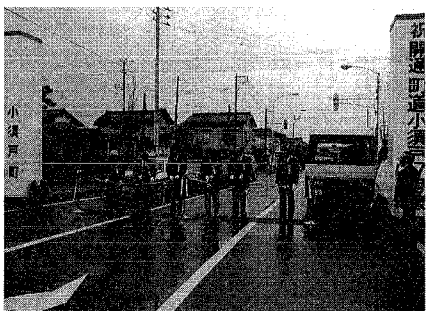
根を食べたりします。イエネズミは貯蔵食糧を食べ、ときには電線やガス管をかじって人間を困らせたりします。また、下水道などの不衛生な場所を通り道にするため、伝染病であるペス

動物として医学の進歩には欠かせません。身近な動物だけに、ことわざにもしばしば登場します。弱者でも追い詰められると強者に逆襲するという意

味「窮鼠猫を噛む」や、前ぶれの騒ぎばかり大きくなって、実際の結果は極めて小さいことの例えである「泰山鳴動して鼠一匹」などは、よく知られています。「頭の黒い鼠」とは、頭髪の黒い人間をネズミになぞらえて、物を盗む人のことです。「鼠の嫁入り」は、あれこれと選んでみても、結局は変わりばえしないところに落ち着くという例えです。

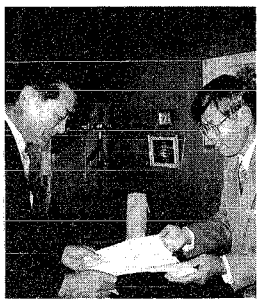
旧暦の時代は野に出て若葉を摘んだものが、新暦になってからは雪深いところなどで七草をそろえることが難しく、一〜二種類の菜だけを使う歌のようです。

町道小須戸17号線が開通しました

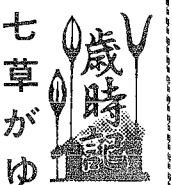


小須戸町の南北縦断道路「町道小須戸17号線(1.1km)」が全線開通しました。なお、開通に伴いまして、交差点の交通形態が変わり、一時停止となる所がありますので、事故を起こさないよう注意して通行願います。

町が明るくなります



東北電力(株)新津営業所から水銀街路灯(四十ワット)が五灯寄贈されました。町では要望のあった町内にそれぞれ配分いたしました。



七草がゆ

一月七日は、七草がゆを食べる日ですね。この風習は平安時代からあったようで、「枕草子」にも登場しています。古くはセリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベ、ホトケノザ、スズナ、スズシロの春の七草を、薬(熱い吸い物)にして食べると万病を除くとされてきました。

その後、七草をかゆに入れるのが一般的になりました。七草をまな板の上に置き、「七草なすな、唐土の鳥が日本の土地に渡らぬ先に七草なすなを摘みそろえ」と唱えながら包丁やすりこぎで音を出してたく風習が広く行われるようになりました。鳥追いの歌のようです。

旧暦の時代は野に出て若葉を摘んだものが、新暦になってからは雪深いところなどで七草をそろえることが難しく、一〜二種類の菜だけを使う歌のようです。

とこともあり。とこと最近では、七種の草をセットにして鉢植えにしたものも売っていますし、レトルトパックにした七草がゆもあります。また、七草をフリーズドライにしたものもあります。そのまま、かゆに入ればいいわけです。これをふりかけ代わりにご飯にかけて食べる人もいます。いずれにしても、七草を食して新しい年を元気で過ごしたいという気持ちには変わりはないわけです。

さて、一月二十六日は「文化防火デー」です。昭和二十四年のこの日に、法隆寺金堂の壁画が焼損しました。この時期は火災が多く発生します。貴重な文化財を火災などの災害から守るよう、一人一人が注意しましょう。

